

今後の学校配置計画の見直しの検討について

現在、審議会（第3期）において愛宕地区の通学区域の見直し等を審議しているが、その後、通学区域の全市的な見直しを行うことは、議会でも答弁しており、教育委員会が定めた基本方針にも規定している。（下記参照）

1 多摩市立小・中学校の一定規模及び適正配置等の基本方針（抜粋）

平成17年9月28日教育委員会決定

5. 一定規模及び適正配置の実現に向けて

（3）適正学校数の実現に向けて

小規模校の現状及び将来推計を踏まえ、当面の通学区域の見直しの対象となる優先地区を以下のとおり設定します。

優先地区のほか、落合・鶴牧地区、諏訪地区では小規模校が現存しますが、今後の住宅建設などにより児童・生徒数が増加する要因もあります。今回示した優先地区の学区見直し後に改めて推計等を行い対象校を確定し、適正学校数に向けた取り組みを進め教育環境の整備に努めます。

平成20年第4回多摩市議会定例会 会議録抜粋（H20.12.1）

一般質問

○議長（藤原忠彦君） 次に、篠塚元議員の発言を許します。13番篠塚元議員。
（13番篠塚元君質問席着席）

○13番（篠塚元君） 篠塚元です。きょうは長い長い1日ですが、あと少しおつき合ってください。

それでは、通告に基づきまして2問質問いたします。

1. 2009年の予算編成について

（ 省 略 ）

2. 子どもの視点に立った教育環境づくりを

以前にもお伺いいたしましたが、多摩市教育委員会としては、子どもたちのためのよりよい教育環境としてはどうあるべきと考え、そのための取り組みとしてどのような取り組みをされてきているのでしょうか。特に、学校選択制、地域の核としての学校の存

在、通学区域、学校や学級の規模の視点から見解をお聞かせください。

以上、ご答弁をいただいた後に、再質問させていただきます。

○議長（藤原忠彦君） 渡辺市長。
（市長渡辺幸子君登壇）

○市長（渡辺幸子君） 篠塚議員のご質問にお答え申し上げます。

（ 省 略 ）

2については教育長がお答えします。

○議長（藤原忠彦君） 足立教育長。
（教育長足立良明君登壇）

○教育長（足立良明君） 2についてお答えします。

学校は地域の方々に支えられ、地域との連携は重要であるととらえていますが、第一には教育の場、授業の場であり、子どもたちにとっての教育環境で一番大切なのは、よい教師であると考えています。

同時に、児童・生徒数の一定規模や施設なども整える必要があり、「多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会」に諮り、緊急性の高い区域を優先して統廃合を進めています。

統廃合を進めるに当たり、通学区域の変更も含め、さまざまな手法を検討しており、その際には、たくさんの友人と触れ合え、集団の中で社会性を育成できる環境のほか、通学時間や距離を含め、通学上の安全等にも配慮し、地域の声も聞きながら進行しています。

現在、優先度の高い区域の対応を図っているところですが、今後の児童推計なども参考にしながら、多摩市全体の通学区域のあり方についての検討が課題であると考えています。

学校選択制につきましても、PDCAサイクルに基づき、必要な見直しを現在進めております。
